



# 笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

## 第45回卒業式

3月17日(金)に、第45回卒業式を行いました。卒業証書授与式では、子供たち一人一人が担任による呼名に大きな返事をして、堂々とした態度で卒業証書を受け取りました。卒業証書を授与する際、子供たち一人一人に、「おめでとう」という言葉をかけました。子供たちが真っすぐに私の目を見て、笑顔でうなずいたり、「ありがとうございます」という言葉を返したりと、緊張した中ではありましたが、その子らしく、私の言葉かけに答えてくれました。子供たち一人一人のくもりのない美しい眼差しを見て、小学校生活を終えて、大人への階段を一步踏み出す大きな節目の式である卒業式の意味を改めて噛みしめながら、一人一人の幸せを願い、心を込めて卒業証書を授与しました。

私から、卒業する子供たちへ次の話をしました。

.....

- ① 私が子供たちに触れ合った2年間の中で、優しさや仲間を思う姿が溢れていた事。
- ② 仲間と共に最高の演技を創り上げようとする思いで表現した「喝采」は、見る者の心に感動を与えた事。
- ③ 下学年への温かな心づかいが、学校生活のいたるところであった事。
- ④ 時に下学年へ厳しく伝えた6年生の言葉は、相手を思うからこそのものであった事。
- ⑤ 委員会活動の中には目立たない仕事がたくさんあったが、学校のために役割を果たす姿を見せてくれた事。
- ⑥ これからの社会は変化が激しく、今ある職

業の半数近くがコンピューターに置き換わっていくと言われている事。

⑦ 大きな社会の変化がおきた明治維新に活躍した一人である西郷隆盛の話。

- ・西郷隆盛は、たくさん失敗し、多くの挫折を味わった中で、器の大きな人間になったと言われている事。

・西郷隆盛の言葉についての紹介。

**人を相手にせず、天を相手にせよ。  
天を相手にして、自分の誠を尽くし、  
人を咎めたりせず、自分の真心が不足していることを認識すべし。**

- ・天を相手にするとは、誰が見ていなくても、天は見ている。つまり、それは、自分の行いは一番自分が知っているという事。

- ・人を相手にせずというのは、人の評価を気にするのではなく、自分がどこにいても恥ずかしくない自分でいることが大切であるという事。

- ・自分自身ができることを真面目に嘘をつかず誠実に行う。うまくいかないときは人を責めたり、非難するのではなく、自分の足りなかったところを認める。そういう心を自分自身で大切に育ててほしい事。

⑧ これからは、人間の代わりにAI(人工知能)が活躍すると言われているからこそ、社会のためにAIを使う私たちにとって、機械にはない人としての豊かな心が大切であり、さらに豊かな心を育ててほしい事。

.....

子供たちの心が豊かに生まれ、素晴らしい未来が広がっていくことを願っています。